



相野谷中だより

第2号

令和4年5月12日

相野谷中学校長室 発行

選ばれた責任。選んだ責任。しっかり果たそう！

令和4年度前期生徒会役員決まる！

◆会長	浅原	隼	さん
◆副会長	向井	竜雅	さん
◆書記	塩屋	凛花	さん
◆会計	大峪	咲	さん



4月22日(金)、前期生徒会役員選挙の立会演説会が開かれました。全校生徒が集う中、選挙管理委員が中心となり会を進行。立候補者はみんな緊張した面持ちで、「いかによい相野谷中学校を創り上げていくのか」について自分の思いを熱く語りました。また応援弁士の人たちも、候補者のやる気や良いところを熱心かつ丁寧に訴えてくれました。

その後、すぐに投票が行われ、放課後の開票の結果、上の4人の方が役員に当選しました。

今回の選挙は、会長が定数1のところ、2人立候補したため、信任投票ではなくいわゆる「選挙」となりました。1人確実に落選する中、立候補した2人の会長候補の人には、まずはその勇気に大きな拍手を送りたいと思います。落選することを覚悟で立候補したということは、それだけ「相野谷中学校をより良くしていきたい！」という強い思いがあったということです。



他の3人の立候補者の積極性も当然素晴らしいことですが、この2人の勇気は特に大きく評価されるべきだと私は思います。

選挙法の改正で、選挙権が18歳まで引き下げられました。あと3~5年で、生徒たちも政治に参加する権利を得ることになります。選ばれた者の責任はもちろんですが、「選ぶ」権利の大切さや責任についても、このような機会を通じて学んでほしいと思います。

修学旅行 ~何を学び、何を修めるか~

4月26日(火)~28日(木)、3年間の中学校生活の中で、最大かつもっとも楽しみな行事である「修学旅行」(伊勢志摩・長島方面)に、3年生14名全員で行ってまいりました。

天気予報が悪く、初日の伊勢神宮でかなりの雨に降られましたが、以後は何とかかんと

か持ち直し、最後のナガシマスパーランドでは好天に恵まれ、たくさんのアトラクションを堪能して、全員元気で紀宝に帰ってくることができました。



さて、「修学」と銘打っていますから、修学旅行は単なる物見遊山的な旅行では当然ありません。

修学旅行のような宿泊的行事は、児童会活動や運動会等と同様に「特別活動」という教育領域に属します。

そういった活動を通じて子どもたちは、クラスの仲間や友達と心が一つになるような**連帯感**や、仲間と一緒に「やった！やり遂げた！」といった**達成感**や**成就感**、そして「自分だって持ち味やよいところがある」、「仲間から必要とされている」、「自分もみんなの

役に立っている」といった**自己肯定感**や**自己有用感**を感得していくのです。

何よりも私は、相野谷中学校という狭い枠の中を越えて、

さまざまな「人・もの・こと」と 「出会い・ふれ合い・学び合う」

ことに、とても大きな教育的意義があると考えています。

例えば、「真珠の取り出し体験」を行う海上の「海小屋」に、私たちは渡船で向かったのですが、その時運転手の漁師さんに船の操舵を体験させていただきました。私の番になり「車の運転と同じだよ」と言われたのですが、これがなかなか難しい。「そこは浅瀬があるから近づき過ぎ！」「もっとゆっくりハンドルを切らなきゃ！」とさんざん「教育的指導」を受けてしまいました。このような体験の中で、漁師さんのもつ技術や知恵、漁業という仕事の大変さや産業の成り立ちを実感として学べます。(学校では、とても無理な話です…)

いくら大人が言葉で伝えようとしても、子どもたちが本やパソコンで調べようとしても、「体験しなければわからないもの」があります。そのような「人・もの・こと」にふれられる機会を、出来るだけたくさん作ってあげたいと思います。

